

二倍怖い。



札幌お化け屋敷 2019

ふたご霊

2019年7月5日(金)～9月1日(日) ノルベサ3階 特設会場 **NORBESA**
営業時間/13:30～21:30 (会期中無休)

[入場料] 前売り 900円(税込) / 当日 1,000円 ※未就学児入場不可

ローソンチケット/TEL 0570-084-001(Lコード:11872) ※前売り券のみ
チケットぴあ /TEL 0570-02-9999(Pコード:992-268) ※前売り券のみ

- お問い合わせ/HBC事業部 TEL 011-232-1373(平日10:00～17:00)
- 主催/HBC北海道放送 ●後援/札幌市
- 企画・制作/MBS/(株)オフィスバーン ●プロデュース/五味弘文(オフィスバーン)、荒井丈介(MBS)

ストーリー

ひとえとふたえは、とても結びつきの強い双子でした。そんな二人が大切にしていたものは、二つの人形を半分ずつ合わせた一子という人形でした。それは、片時も離れたくないという二人の気持ちを表していたのかも知れません。高校生になった二人は、種田という男と仲良くなります。けれど、二人を愛するわけにはいきません。悩んだ挙げ句、種田はひとえを選びました。二人の心が、生まれて初めて二つに割れました。独りぼっちになったふたえは、川に身を投げてしまいます。しかし、すべては二人をバラバラにするための遊びだったのです。それを知ったひとえは、ふたえの後を追います。けれど、別々の思いで亡くなった二つの心は、一緒になることができません。どうか、ばらばらの一子人形を一緒にして、二人の魂を一つにしてください。

「引き裂かれた私たちの人形を返して…」

五味弘文 お化け屋敷プロデューサー

1992年、後樂園ゆうえんち(現 東京ドームシティ アトラクションズ)において、『磨赤児のパノラマ怪奇館』を手がけ、以降、25年間にわたりお化け屋敷を制作している。お化け屋敷にキャストを復活させ、さらにストーリーとミッションという要素を持ち込むことによって、大人が楽しめるエンターテインメントに生まれ変わった。代表作に、赤ん坊を抱いて歩くお化け屋敷『パノラマ怪奇館～赤ん坊地獄』、本物の廃屋を移築した『東京近郊A市～呪われた家』、幽霊の髪の毛を梳かして進む『恐怖の黒髪屋敷』、靴を脱いで体験する『足刈りの家』、死者と指切りをしてくる『ゆびきりの家』などがある。著書に、『人はなぜ恐怖するのか?』(メディアファクトリー)、『お化け屋敷になぜ人は並ぶのか～「恐怖」で集客するビジネスの企画発想』(角川oneテーマ21)、小説『憑き歯～密七号の家』(幻冬舎文庫)がある。

観覧車 & 商業施設



札幌市中央区南3条西5丁目

ACCESS

- ・地下鉄南北線「すすきの」駅より徒歩約2分
- ・地下鉄東豊線「豊水すすきの」駅より徒歩約4分
- ・地下鉄東西線「大通」駅より徒歩約7分

